

1. 1995年度
総会記録

1995年度の総会は、11月4日（土）、大会第1日目の報告ののち、事務局員の在間宣久氏の司会で5時10分から開かれました。代表理事の神立春樹氏の挨拶のあと、次のような報告・議案が提出され、了承されました。

(1) 1995年度事務報告 1995.11.4

ア. 事務局の変更

- ・1994.12.1 : 郵便振替口座開設、ゴム印等の作成
- ・1995.4.10 : 会員への通知—94年度大会終了報告、事務局新体制の報告名簿作成資料の送付など

イ. 名簿作成、大会準備

- 1995.6.20 : 名簿、会報9号の送付
- 6.30 : 大会開催予告、発表申込の受付など連絡
- 8.20 : 理事会開催通知
- 9.9 : 理事会開催（於、岡山大学経済学部410号室）
 - : 参加者：及川順（山口）・松尾寿（島根）・平田桂一（愛媛）・神立春樹・下野克己・森元辰昭（以上岡山）
 - : 議題：1. 報告者・報告論題の決定、司会者の決定
- 2. 1997年度大会開催地について—広島の理事にお願いする。

3. その他、鳥取の理事に中山精一氏（鳥取大学農学部）を推挙することとした。

9.11 : 報告者・報告論題決定通知（報告者宛）

理事会結果報告（理事宛）

以後は、開催校（山口大学）による大会諸準備に入った。

ウ. 会員の状況

1994年度会員 154名（名簿作成時）

1995年度会員 156名（1995.10.31現在）

<増減内訳>

退会者 池内克水（愛媛—死去）、
向井義郎（広島）、
小島健（広島）、
田中康信（鳥取）

以上4名

新規加入

井内太郎（広島大学文学部—イギリス史）
井上佳余子（鳴門教育大学大学院学生—イギリス史）

大塚利昭（岡山市役所—景観論）、
鞠 玉華（岡山大学大学院—学生—中日比較教育史）

金 永徽（キム ヨシ・フィ、広島修道大学大学院—学生—日本近世史）

仙田 実（就実女子大学—地方史）

以上6名

<住所変更> 内藤正中—3^ハ-ジ
古志原町943→古志原4-15-22

- (2) 1995年度会計報告—以下の報告がなされ、了承された。

1995年度会計報告(1994.11.6~1995.11.5)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	146,870	ゴム印代(64.12/1)	4,620
会費徴収(10/21現在)	153,000	切手代(95.4/7)	10,000
92年度 3口 3,000		名簿表紙用紙代(6/28)	1,190
内 93年度 21口 21,000		名簿・会報9号用紙代(同)	3,200
94年度 31口 31,000		切手代(7/5)	29,900
訳 95年度 79口 79,000		大会補助費(11/4)	30,000
96年度 16口 16,000		理事会弁当代(11/4)	15,000
97年度 3口 3,000			
		小 計	93,910
利 子(4/1現在)	522	次年度繰越金	206,482
合 計(10/31現在)	300,392	合 計(10/31現在)	300,392

(3) 人事について

- ・欠員中の鳥取の理事に中山精一氏(鳥取大学農学部)を推薦する
- ・監事に太田健一氏(山陽学園大学)を追加することが、それぞれ了承された。

(4) 夫婦会員の会費について

- ・1人分を半額とし、合計年会費を1,500円とする。

(5) 次々回(1997年度)開催地について

- ・広島に願います。

以上の決議を行い、総会を終了した。この結果、1996年度の役目は、以下の通りである。

1996年度役員一覧

代表理事 神立春樹

理事 松尾 寿(鳥根)、下野克己・森元辰昭(岡山)、小川国治・道重哲男・加藤房雄(広島)、及川 順(山口)、伊丹正博(香川)、三好昭一郎(徳島)、平田桂一(愛媛)、岡田英里(高知)、中山精一(鳥取)

監事 辻岡正巳、太田健一

幹事 井上 洋、千田武志、安蘇幹夫

顧問 内藤正中、比嘉清松、奥田秋夫、渡辺則文、高橋 衛

事務局 森元辰昭(事務局長)、在間宣久
社会経済史学会理事 岩橋 勝、神立春樹
事務局 〒700 岡山市津島中3丁目1番地
岡山大学経済学部(神立春樹研究室)

電話 086-252-1111(代表)内線7535

直 通 086-251-7535

F A X . 086-253-1449(経済学部事務局
部人事係に設置)

郵便振替口座番号 01290-4-12846

(加入者:社会経済史学会中国四国部会)

2. 1995年度

大会報告

1995年度大会は11月4(土)、5日(日)の両日、山口大学経済学部を会場に、次の10報告がなされ、活発な討論が展開されました。

〔研究報告〕

《第1日目》

- (1) 明治前半期の資本主義化と国立銀行の役割—第百十国立銀行を例として—
早瀬高等学校 畠 中 茂 朗
- (2) 近世初中期における丹後湊廻船の活動状況—北前船以前の日本廻船の模様—
山口大学経済学部 木 部 和 昭

(3) 日本の近代化と東アジア—東アジア地域史研究序説—

崇徳高等学校 小野寺直日

(4) 教育についての中日比較研究—両国の「教育法」を中心として—

岡山大学大学院文化科学研究科

鞠玉華

(5) 明治三十六年度全国高等学校入学試験状況と旧々山口高等学校

岡山大学経済学部 神立春樹

《第2日目》

(6) 近代における岡山県蚕糸業の地域的

動向 岡山東商業高等学校 前田昌發

(7) 初期テューダー朝の経済・財政政策

—ヘンリー7世の財政政策—

鳴門教育大学大学院学校教育研究科

井上佳余子

(8) イギリスにおける環境保全事業の実例

—民間団体の組織と活動—

岡山近代史研究会(岡山市役所)

大塚利昭

(9) 近世地方書の論理構造—「芸州政基」

・「農政隨筆」にみる中期広島藩農政の動態—

尾道短期大学 勝矢倫生

(10) 十八世紀後半におけるシュレスヴィヒ

—ホルシュタインの貴族領

山口大学経済学部 及川順

3. 社会経済史学会中国四国部会に参加して

山口大学経済学部 奥和義

社会経済史学会中国四国部会が山口大学経済学部で開かれ、小生も報告の司会、その他でお手伝いすることになった。以下、簡単ではあるけれども、小生が司会をさせて頂いた報告を中心にして、大会報告のことをふる返らせていただきたく思う。

小生が司会を担当させて頂いた報告は、小野寺直日先生の「日本の近代化と東アジア」と題する報告であり、世界史的視野をもって、

比較政治学の観点から、日本の近代化を問い直そうとする意欲的な報告であった。日本の近代化については、講座派と労農派の論争以来、多くの論客が多様な議論を展開している。この大問題に氏は、従来の研究がもっていた西欧中心史観からの脱却を強く説かれた。

本報告には、フロアからの質問が相次ぎ、活発な議論が展開され、熱気に満ちていた。ただ、時間的な制約があったために、司会者である小生の不手際もあって、途中で質問を打ち切らねばならずとても残念なことであった。また論点は多岐にわたるために、ここで一つ一つを取り上げられないのも残念である。

この報告以外に報告は9本あり、内容は、日本近世史、日本近代史、西洋経済史、教育史、イギリスの環境保全の実例など多種多様で、いずれの報告も興味深いものであった。どの報告にも鋭い質問と白熱した議論が相次いでいたため、参加している2日間の間に、かなり耳学問が出来たように感じた。小生が入っている学会は規模の大きいためか、学会報告は顔見せ興行のように感じられることも多く、このように熱のこもった学会は久々であった。また、懇親会で高名な先生方からも直接お話を伺えたこともとても有益であった。

このように有意義な学会が、関係する諸先生方の絶大な御協力によって維持されていることに感謝して、この拙文を終わりたい。

◆<1995年度社会経済史学会中国四国部会大会を終えて>

山口大学経済学部 木部和昭

1995年度大会は、去る11月4.5日の2日間にわたって山口大学経済学部第一大講義室を会場に開催された。中国四国地方の中では一番の西端に位置する山口での開催にもかかわらず、約40名の方々の参加があり、10本の報告を巡って熱心な討議が行われるなど、まずまずの盛況の内に大会を終えることができたの

ではないかと、大会実行委員の一人として内心ほっとしている。

私自身、本大会が山口大学で開催されることを知ったのは今年の春頃であった。今春、山口大学経済学部に着任したばかりで、いきなり大会の実行委員をすることになり、上手くやれるかどうか非常に不安であった。大体、その時点では社会経済史学会そのものに入会しておらず、急遽入会手続きを取ったような次第だった。特に戸惑いを感じたのは、この中国四国部会の大会というものに一度も参加したことがないため、どういう雰囲気の大会有什么かが把握できず、会場の設営などは実行委員長の及川順先生のアドバイスを受けながら、手探りで何とか一応の体裁を整えた。本当に急場しのぎの粗末なものばかりで、また、ちょうど大学の休校日にあたっていたため、十分な対応が取れなかった面もあり、誠に申し訳ない次第である。さらに、あいにくの寒気厳しい折、暖房のない講義室・懇親会会場で、参加された皆様の中にお風邪でも召された方がいらっしやっただのではと、後になって心配している。

この様に、必ずしも万全ではなかった大会運営だったが、参加の皆さんのご協力・ご支援のお蔭を以て、何とか無事に大会を終えることができた。実行委員を代表し、関係各位の方々に対し心より厚く御礼申し上げます。

◆<大会参加記>岡山市役所 大塚 利昭

このたび1995年度大会において発表の機会を与えていただきありがとうございます。

私の本業は事務職の公務員で、日常的には研究活動とは全く縁がありません。ただ3年前にイギリスの都市計画や環境保全の事業を見学し報告書を書く機会があり、それが今までで唯一の研究的な活動です。今回はその時の成果をもとに、イギリスの環境保全事業と民間団体について発表させていただきました。

イギリスというと経済学が専門の皆様は産業革命や植民地政策などをまずイメージされるかと思いますが、私は自然監察やバードウォッチングを趣味としている関係から、「博物学が盛んで自然愛好家の多い国」、「海岸や湿地等の自然を大事にしている国」、という面でイギリスを見てきました。実際に彼の地を訪れ行政庁や環境保護団体で話を聞いてみると、都市計画や環境保護政策が思った以上にきめ細かく、その徹底ぶりには驚かされました。「基本的に新たな開発はしない。する場合は良いものができるよう十分配慮する。そのために必要な手間は行政も民間も惜しまない」、こういう市制がはっきり打ち出されてるようでした。そうした政策が可能なのも民意のバックアップがあるからで、その点は会員が数十万人といった大規模な自然保護団体の存在等によく現れているようです。

振り返って現代日本の自然環境、都市環境について考えると、依然として経済優先、私利優先の傾向が強いことは否めません。経済と環境保全の両立、この大きな問題にどう答えを出すべきかは私などには難しすぎる問題ではありますが、今回の学会参加を契機に少しずつでも勉強できればと思っています。最後になりましたが、拙い発表に門戸を開いていただいた学会運営委員の諸先生方に改めてお礼申し上げます。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

編 集 後 記

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

師走の候、何かと忙しいことと存じます。会報第10号をお送り致します。今回は、1995年度大会の速報です。会場校の山口大学の諸先生、大会参加記をお送り頂いた3名の方には大変お世話になりました。領収書を同封しました。誤りがある場合には事務局までお知らせ下さい。「戦後50年」の今年もわずかとなりました。次号は6月に発行する予定です。よいお年を！！ (森元記)